Heroldo de HEL

N-ro 50 decembro 1993

ORGANO DE
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟
062 札幌市豊平区旭町４丁目１番４０号
北海学園大学 切替英雄 気付
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO
Kirikae-Hideo, Hokkaigakuen Daigaku,
Asahimachi 4—1—40 Tojohira-ku,
Sapporo-shi, 062, Japanio

ENHAVO

Okaze de Nia 50-a Numero
５０号を迎えて

Kiam naskiĝis Heroldo de HEL
Heroldo de HEL 発刊の頃のこと
KIMURA Kimiharu 木村喜壬治 2

EL ARKIVOJ DE HEL
HELの記録から
Acuŝi HOŜIDA 星田 淳 2

RAKONTAS EKSREDAKTANTO
編集に５年間たずさわって(前編集者が語る)
KAWAHARA H. K. カワハラ・カズヤ 4

Dulingva (esperanta-japana) legaĵoj kun nova tipo
新しいタイプの対訳付き読み物
Kirikae-Hideo 切替英雄 3

Rememoro de HAGIHARA Kenzoo
回想 萩原謙造
SAKURAI Ĵinkiĉi 桜居甚吉 8

Ĉe la 80-a kongreso de Japanaj Esperantistoj
第80回日本エスペラント大会あれこれ
Acuŝi HOŜIDA 星田 淳 10

ＳＥＳ通信 11

Informoj
ＨＥＬからお知らせ(新年会案内等) 12

Lernado 学習の頁
Mituiŝi K 三ツ石 清 13

Propono por LA LEĜO PRI LA AINA NACIO(5)
アイヌ新法試訳(５)
Tomakomai Esperanta societo
苫小牧エスペラント会 14

Nova Perspektivo al la "Nova Leĝo" por Ainoj
アイヌ"新法"への新展望
Acuŝi HOŜIDA 星田 淳 16

INTERVENO al la 57-a kongreso en Otaro
第57回北海道エスペラント大会への挨拶
(大会開催日に郵便が間に合わなかったもの)
KAWAHARA H. K. カワハラ・カズヤ 17

La Zamenhof-Festo en Sapporo
札幌エスペラント会のザメンホフ祭
Ejko Abe 阿部映子 18

Bonvolu lerni Esperanton
エスペラント語のすすめ
Ŝindoŭ Ŭatanabe 渡辺晋道 19

El Sekretariejo 事務局から
Kirikae-Hideo 切替英雄 20

Son-gazeto Najtingalo(6)
カセットマガジンにアイヌの音楽も
Acusi HOSIDA 星田 淳 21

Novaĵo de s-ro Yamamoto
近況報告 山本昭二郎氏 21

Donacitaj Gazetoj 寄贈図書
Kirikae-Hideo 切替英雄 22

Japana eldonaĵo de Boulton-a Zamenhof: Creator of Esperanto aperis
ボールトン「ザメンホフ」翻訳・出版される
Kirikae-Hideo 切替英雄 24

Letero de leganto 読者からの手紙
K k カワハラ・カズヤ 26

El redaktejo 編集部から
Ejko Abe 阿部映子 28

Heroldo de HEL 発刊の頃のこと
Kiam naskiĝis Heroldo de HEL

木村　喜壬治　（札幌）
KIMURA Kimiharu (Sapporo)

Ĉi tiu organo "Heroldo de HEL" naskiĝis en decembro 1982, kiam nia movado estis en la plej malvigla kaj mizera stato post likvido de Hokkajda Esperanto-Centro. Ofte pasis jaro aŭ jaroj inter eldonoj de LEONTODO, organo de HEL laŭ la decido de la 18a Kongreso. S-ro Kimura, tiama prezidanto de HEL, rakontas kiel li mem kompilis kaj grifelis (garintis? por mimeografi) unuajn "Heroldo"-jn unufoliajn. Tiel naskiĝis nia nuna organo nun 50-numera. (A. Hoŝida)

Ｈｅｒｏｌｄｏの発行を始めることになったのは豊平区にあったエスペラントセンターを清算した頃です。

当時のＨＥＬの事務処理担当者が急なことで転居してしまい、ＨＥＬ会計の引き継ぎのないまま暫時を経過しました。

図書については、手持ち図書のうち返品できる物を返品し、その他の図書、物品などは強制買い上げをお願いしたり、またセンターの閉鎖等によってどうやら片付けました。これらの事務処理は主として児玉さんが担当してくれました。

当時、ＨＥＬの広報誌はＬｅｏｎｔｏｄｏで、原稿が集まらなかったため年一回出せるかどうかの状態にありました。このままでは沈滞の度は増す一方だというので、Ｌｅｏｎｔｏｄｏは原稿が集まったときに発行し、当座の運動の動きを、２～３頁でもよいから年に３－４回出そう、ということになり（執行委員の合意）、上記の事務処理と並行して発足したのです。

ガリ切りを小生が引受けることによって、まとまりました。ガリ切りは編集に係ってくるので、原稿集めもやらねばならぬようになり、８号か９号まで出したのではなかったでしょうか。

此の時以来、事務処理は時の成り行きから児玉さんに主役をお願いすることになりました（次の正規の選出まで）。

＊＊＊　　＊＊＊　　＊＊＊

EL ARKIVOJ DE HEL

Acuŝi HOŜIDA (Tomakomai)

＊1980. 7. 18: LEONTODO N-ro 66 発行

「ＨＥＬ活動１年の歩み（児玉）」で北海道エスペラントセンターの存続の危機を強調、今後の維持についてのアンケートを実施している。なおセンターはこの直後豊平区平岸から美園に移転。

＊1981. 9 ： 北海道エスペラントセンター閉鎖。

＊1982. 5. 20: LEONTODO N-ro 67 発行

「ＨＥＬ活動の昨今（児玉）」は活動の沈滞を指摘（LEONTODOが２年出なかった、センター閉鎖など）、今後の方針として

「レオントードは大会直前に発行、その他の連絡事項はインフォルミーロに代える」と提案。
＊1982.7.25:LEONTODO N-ro 68 発行
＊1982.8.7~8.:第４６回北海道大会（札幌ホテルノースシティ）
＊1982.9.20.: Bulteno de la 46a HEL-Kongreso 発行。Ｂ４版１枚片面を２頁にしたInformilo.
「あとがき」に「Leontodoは何回も出せませんがこの程度のものを数回だしたい――」とある。
＊1982.12 1:Heroldo de HEL N-ro 1 発行。前記 Bultenoと同じＢ４版１枚片面２頁。
「年に４回くらいはこの程度のものでもだしたい――何でもラポルトを送って下さい。――北海道が plej malviglaなようです。――」とある。
＊これ以来随時Heroldo de HELを発行。1983. 8. 22. 迄４号。
＊1983.9.10:LEONTODO N-ro 69 発行。「シベリヤ同志を訪ねて（星田）」の付録付き。編集後記に「今までのＢ５版を次号からＡ６版にして郵便料金を安くする――」とあるがこれは実現せず、LEONTODOはこれ以後発行されていない。
＊これ以後 Heroldo de HEL の発行が続き事実上の機関誌になって行くが、jen, io stranga !
＊1984.11. 5:Heroldo de HEL N-ro 8 発行。
「第４８回北海道大会終る」など。ガリ版両面。
＊1985. 5.20:Heroldo de HEL N-ro 8 発行。
「第４９回北海道エスペラント大会（第１報）」等。これ以後 Heroldoは全面タイプ印刷になった。
☞つまり８号はガリ版とタイプで２度出ている。一方７号が見当たらないが、お持ちの方があったらお知らせ下さい。☜
＊Heroldo de HEL N-roll(1986.2.20) の編集後記に「N-rollからｎｏｖｍｅｍｂｒｏ.ｊで編集し、お届けすることになりました。－（Ｋ）」とある。
この号からスタイル一新。全文ワープロコピー、左右２２字／行ｘ３６行づつに分け、１頁上の表題の下に「（編集者）高橋要一、小林貴美子、宮井康夫」とある。すると上の（Ｋ）は小林さん？
此の時のＢ４版１枚４頁を原型としその後発展して Heroldo de HEL は現在に至っている。

新しいタイプの対訳付き読み物

Dulingva (esperanta-japana) lega^oj kun nova tipo

京都エスペラント会が出している「やさしい読み物」シリーズは、ほとんどすべての単語の訳が対照しやすい位置に配され、読む便宜がはかられている。これ以上親切な読本は、おそらくないであろう。ご希望の方には、郵送費をお支払いただければ、見本、目録をお送りします。（送られてきた見本によれば、対訳と謳われていますが、いわゆる対訳本ではない）

[切替英雄 Kirikae-Hideo]

編集に５年間たずさわって

カワハラ・カズヤ　（仙台）

いつかは来るだろうと思っていた第50号。あらためて前号までのバックナンバーを読みかえすと、やはりなつかしい。いい機会だから、わたしが編集にかかわっていたころのことを書くことにする。たぶん長い文になる。自分史の一部もかねる。こういう読み物があってもいい、と一人合点している。個人的な記録にすぎないから記憶違いがあったり、見解の相違もあるだろう。自分に都合の悪いことには当然ふれない。だから次号以降で補足、反論してほしい。

遠いむかしの話でもないのに記憶があいまいになることが、さいきんもあった。函館の佐々木将人さんに、彼が編集・発行人だった札幌エス会初級講座（苫小牧の北畠瞳さんが講師。通称 Rondo Pupiloj）機関誌 TRANSDONO- TABULO について問い合わせた。佐々木さんの返事では T-T.発行の直接のきっかけはわたしの発案にあったという。 T-T. の発行は1985年の春からその年の12月までの通算５号。わたしのエスペラント入門は10月だから、発刊のとき、いなかった。佐々木さん当人が勘違いしていた。

事実は正確に文字にしておいたほうがいい。記憶や口伝えはいいかげんだし、残らない。こういう小さなことでさえ、やがて歴史に属することがらになる。そして本誌も将来は運動史の基本資料になるのだから。

Heroldo の型をつくった宮井さん

わたしが Heroldo de HEL の編集に参加したのは、17号(87/03) からだ。11号(86/02) 以降の編集委員は高橋要一さん、小林貴美子さん、宮井康夫さんの三人で、編集長は宮井さんだった。最終作業と発送は日曜日に宮井さんの司法書士事務所でされていた。 Rondo Pupilojの砂野裕子さん、藤平あや子さん、阿部映子さん、馬場恵美子さん、渡辺康子さんや木村喜壬治さん、児玉広夫さん、末永章子さん、瀬川綾子さんも、その作業にくわわっていた。もっとも、この人たちが、いちどきに顔をそろえたわけではないし、日本大会関係の作業もここでやったので、そのときと混同しているとは思う。

宮井編集長の時期（20号(87/09) まで）は余裕があった。まず宮井さんが集まった原稿の大部分を本職の合間にワープロに打ちこんでいて、ページ建てもできていたし、コピー機も所内にあった。ワープロからの打ち出しから封筒づめまでマニュファクチュア式に進行していった。札幌の会員の知恵と協力で Heroldo de HEL が支えられていた時期でもあった。のちのように７円コピーの店を渡り歩き、就学前幼児が切手貼りをする光景は想像だにできなかった。

宮井さんの編集はていねいだった。切り貼り主体の誌面はさけていたと思う。どの原稿がメインになるべきか適確に割り付けされていたし、必要な原稿はこまめに依頼していた。１ページを２段組みにして、読みやすくし、また体裁もよかった。連盟の機関誌としての体裁について宮井さんには期するところがあったのではないだろうか。直接聞いたような気もする。

宮井さんのもとで編集を手伝った期間はみじかかったが、ずいぶん勉強になった。 Heroldo の原型はこの時期につくられた。あとはマニュアルどおりにやればよかった。つまり後続のわたしは楽だった。ワープロ、コピー機の普及はまさに機関誌革命をもたらした。 Leontodo の時代にくらべて、編集発行の技術、手間は格段に容易になった。訂正も貼り込みも印刷もなに

も造作ない。素人編集者でもそれなりの雑誌をつくることができるようになった。それにしても、I-T.で手腕を発揮した佐々木さんがその後の Heroldoの編集にかかわっていなかったのはなぜなのだろう。

88年日本大会前後のこと

21号(87/11) から編集長は高橋要一さんで、実務のほとんどをわたしがひきうけることになる。宮井さんと小林さんが日本大会組織委員会に移り、馬場さんとわたしが正式に部員となった。この交代は88年の日本大会の札幌招致をめぐる、例の、北海道連盟と札幌エス会との対応の違いが発端だが、そのほかの要因もあったと思う。わたしは、そのまま編集部に残って、実務をやってもいいと、かなり自信をもって編集部内でも連盟委員会でも表明したことはたしかだ。ほかに積極的なひきうけ手がいなかったし、機関誌づくりに興味をもちはじめていたころでもあった。宮井さんは、そんなわたしに気おされて、道をゆずったのが真相かもしれない。

88年日本大会招致のいきさつは、本誌では22号(88/01) に児玉さんが書いている。わたし自身はその決定の外側にいたので（連盟が辞退した２度の委員会、招致を決めた札幌エス会臨時総会とも勤務の都合で出席していない）語ることができない。関東連盟機関誌PONTETO 88年11月号に宮岸忠孝さん、北畠さんが、いきさつの一面にふれている。ちなみに、わたしは寄稿のひとつにつけられた「顛末記」なるタイトルが不快だった。よそさまが特集を組むまでもない北海道連盟の内部問題だ。12月号では、わたしが関東連盟の編集姿勢について疑問を呈した。長文だったので原稿の取扱いは関東連盟の植木国雄さんに一任した。「関東連盟による北海道連盟への組織介入うんぬん」という核心にふれる部分５行がそっくり抜け落ちて誌面にのった。さすがに植木さんの眼力はするどいと思った。

日本大会について、連盟は辞退、札幌エス会は招致ということになった。札幌エス会が連盟最大の地方会で、役員の大多数が札幌の会員だというのにだ。まずいことに札幌エス会は当時もいまも自前の機関誌をもっていない。この件では連盟の辞退を前面におしだし、札幌エス会の招致記事の扱いを小さくしろといってきた役員（複数）がいた。連盟決定との整合性が必要だという。第１面のレイアウト、見出し、原稿まで送られてきた。のちに連盟が札幌エス会への「精神的な後援」をきめたので、整合性がもてた。現実には連盟総力の大会準備だったのが事実なのだが。もっとも、 Heroldoが有力な情報源となり、参加者数増に貢献したかどうかは別問題だ。しかし札幌をはじめとする連盟会員には好感をもってもらったと信じたい。

そのうちに馬場さんは日本大会専従のようになってしまった。わたし一人で高橋編集長の了解（事後のことも多かったが）を得ながら編集発行する状態がつづいた。わが家の食卓が作業台となった。高橋さんはヴェテラーノの風格で、すべてに鷹揚だった。息子のような年代で（わたし自身、自分を若いと思っていた）、威勢だけはよかったわたしを持て余していた観があった。「あぁ、それでいいんでないかい」ということばを例会のときなどに何回も聞いた。その高橋さんも日本大会直後に編集長を退き、27号(88/12) からはわたしが編集責任者になった。

星田さん、切替さんとの連携

Heroldo de HEL について全責任を負う、くらいの気持ちでいた。じじつ、36号(90/aŭtuno) までの２年ちかく、原稿あつめ、ワープロ打ち、割りつけ、印刷、発送にいたるすべてをひとりでこなした。わたしの生活のリズムと仕事のつごうに発行日をあわせて自転車操業した結果そ

うなっただけの話だが、いまならそんな気力も能力もない。よく一人であれだけできたものだなぁ、とつくづくかんじる。こんど、どこかでさりげなく自慢してやろう、とひそかに思う。敵もつくったがエスペランチストとして、もっとも充実した期間であった。

だが、連盟にとってはけっしてよいことではなかった。宮井事務所時代の和気あいあいの共同作業は、そこにはもうなかった。連盟の「顔」である機関誌が個人の仕事にまかされてよいはずがない。わたしの都合で発行が遅れがちになるのも精神的負担になった。家族へのしわよせもおおきくなりすぎた。 Heroldoがわたしの時間と空間を占領しすぎている、と気づいたとき決断した。37号(90/12) から編集長を馬場さんにかわってもらった。以後41号(91/08-09-10)までの期間は、編集部員として、かなりのページをうけもったうえで、馬場編集長のやり方にくちをはさんだ。はっきりいって馬場さんはやりにくかったはずだ。42号(92/04-05)は、馬場さんとの確執のすえ、わたしが編集長に復帰した号であった。そしてわたしが編集にかかわった最後でもあった。

わたしが編集長になったとき、苫小牧の星田淳さんが連盟委員長に、とうじ小樽に住んでいた切替英雄さんが事務局長に選出された。この二人は以前からよく Heroldoに寄稿してくれていたし、個人的にも率直な意見を交換できるあいだがらだ。この委員長と事務局長がいたから、わたしも Heroldoの周辺から離れなかったのだと思う。星田さんは、わたしの無理をいつもきいてくれたし、「本人ができるといってるのだから」と、やりたいようにやらせてくれた。切替さんは、わたしの持論「学者が運動にくちだしすると、ろくなことがない」を一部トーンダウンさせた人である。三人の連携はうまくいった。連盟が恒常的に活動できるのは Heroldoだけなのだから、それを充実させてゆく、ことが編集の基本すえられた。わたし自身、つくるからには、いいものを、という編集者としてあたりまえの欲をもっていた。タイプミスの一掃、誌面の見ばえもふくめてである。

会員の寄稿がささえる機関誌

「困ったときの星田だのみ」「苦しいときの切替だのみ」。原稿が足りないとき、目玉がないときの冗談だった。もっとも、状況に応じてなまえの部分が、山本昭二郎さん、山岸悦子さん、山口紀代美さん、須藤昭三さん、木村喜壬治さん、児玉広夫さん、佐藤奈美子さん．．．というように代わったが。ここに記した人びと以外にも、たくさんの会員が依頼にこたえて寄稿してくれた。山本さん、須藤さんには連載で協力してもらった。山岸さんの世界大会印象記などは“daūrigota ”と末尾に勝手にかきくわえて次号原稿を「強要」さえした。新しい会員非会員にもどしどし原稿を依頼した。結局のところ、 Heroldo de HEL をささえるのは会員なのだ。わたしが自負できることといえば、書く人と読む人のあいだの作る人の立場で「交通整理」をしたことなのだろう。

この時期、依頼、催促、校正、礼状とじつにたくさんの手紙をかいた。編集費のなかの通信連絡費がかさんだ。わたしの意見はこうだ。組織とは連絡である、しかも電話でなく文書ですべし。通信費をけちるべきではない、編集部、事務局の通信費の多少はその組織の活発さの指標である。ついでにいう。 Heroldoのページが４ページふえるとして、10円コピーを利用して20円増。８ページふえても40円の増。郵送料が10円増しになっても１部50円アップになるだけだ。 100部で5000円の出費増がいまの連盟に負担となるだろうか。戦後最悪の細川内閣がちかぢか郵便料金を値上げする。それでも、非人間的労働強化攻勢と現場で対峙する逓信労働者を

おもいやれば郵便料金は高くない。

全会員が毎号 Heroldo de HEL に原稿を送ったところで、連盟の財政はゆるぎはしない。おおいに書くべきではないだろうか。京都エス会機関誌（季刊）の最新号は、なんと68ページ。ただし編集部の手間をはぶくため、早めに送稿し、できるならワープロ、タイプライターをつかい、編集部との校正のやりとりをしっかりやって、最終的には完全原稿でわたせるとよい。編集者の編集権もわすれたくない。

ついでに、もうひとついう。さいきんの人名、地名のエス表記（ローマ字表記）はおかしい。1面題字右の連盟住所はどう考えても、できそこないのヘボン式だ。字上符が印刷屋にないときの緊急避難的hの代用らしいが、これがエスペラントだと世間に思われるのは心外だ。人名には、それぞれの言い分があるだろう。それを尊重しても、同一人物の表記統一はできるはずだ。ABE Ejko、Ejko Abe、 Abe-Eiko 。49号にのった三人のうち、だれがいったい、わたしが知っている阿部映子さんなのですか。

Parolas Hokkajdo のこと

誌面でのエス文と日本文との割り合いはどのくらいがいいか。エスペラントの専門団体としては、それなりの体面がある。半分はエス文がしめられたら、というのがわたしの結論だった。（この長い文章が全文、第50号に掲載されると必然的に日本文の比率を高めることになる。責任をとって、エス文記事もおくる）

いまだから白状するのだが、わたしが目標としていたのは La Movado（西日本各連盟共同機関誌）と novaĵoj tamtamas （横浜エス会のエス文ニュース誌）だった。エス文が誌面に散在するのはもったいない、これらを外にむけて発信する方法はないだろうか。novaĵoj tamtamas がヒントになった。横浜方式でエス文を数ページにあつめて独立させるのだ。それが40号(91/06-07)、41号(91/08-09-10) の２号だけに見られた Parolas Hokkajdo だった。そのまま外国に送れるページとして、試験的に提示したつもりだった。第１号の４ページは、わたしがあちこちで取材して書いた。札幌の平和集会での従軍慰安婦問題の講演、国鉄労働運動、札幌のアナキストからのよびかけ、アメリカのゲイ・エスペラント誌の紹介などがテーマだった。つまり編集者の関心が色こくでていた。

直後に、ある会員から「満州事変は正義であった」とする1930年代の機関誌の記事紹介がわたされたが、書きなおしをおねがいした。書きなおされたものも趣旨はかわらない。ＰＨへの唯一の反応だった。わたしは編集権を行使した。あとにも先にも、会員からの寄稿をボツにしたのはこのときだけだ。星田さんはこの件で、編集部のコメントつきで掲載するのも方法といってくれたが、そうなればエスペランチストの戦争協力にまで言及しなければならなくなる。これでも遠慮したのだ。わたしは賢明だった。

この Parolas Hokkajdo 方式は採用にあたいすると、いまでも思う。どうせ書くなら、身内にだけではなく、北海道から、日本から、世界にむけて発信しようではないか。すでに北海道からは、ＳＡＴ札幌グループが FRONTE で世界に発信している。 Heroldo de HEL も世界を相手に語りかけようではないか。

編集にたずさわった５年間の思い出はつきない。ふり返ると、面とむかって批評、批判、注文された記憶がほとんどない。ホメラレモセズ、ケナサレモセズ、といったところか。わたしがいなくなって、編集部内の風とおしも、だいぶよくなったときいている。道外会員のくりごともおしまいとしよう。 Heroldo de HEL と北海道エスペラント連盟のこんごに期待する。

(1993/decembro/03)

圖 憩 萩 原 謙 造

Rememoro de HAGIHARA Kenzoo

SAKURAI Ĵinkiĉi (Iŭanai)

La artikolo pri HAGIHARA Kenzoo en la N-ro 46 de Heroldo de HEL revokis mian malnovan kaj karan memoron antaŭ sepdek jaroj, do mi skribas tiel --(al Acuŝi HOŠIDA) Mi vidis lin en la fremdlingva jarkunveno de Otaru Komerca Kolegio en 1921(? eble 1922*1). Ĉirkaŭ ses studentoj esperantistaj prezentis dramon "La leviĝo de la luno" temantan pri irlandaj patriotoj batalantaj por nacia sendependeco. HAGIHARA Kenzoo estis ĉefa aktoro, kiu parolis la plejparton de la prezentado bonege, flue kaj impone. Post la dramo li paroladis longe kun la titolo "La Patrujo". Lia flua kaj lerta parolo tute imponis min. Ankaŭ en germanlingva dramo li reaperis por monologi longege.

Mi vidis lin nur unu fojon en la okazo. En la sekva jaro li malaperis el Otaru, sed mi ne povis forgesi lian ĉarman esperantistecon. La artikolo de S-ro HOŠIDA surprizis min per la enhavo, ke li mortis en 1940 post aresto kaj subpremado fare de Tokkoo, la politika polico de Japana Imperio. Kun doloro mi, vivinta ĝis 90-jara aĝo sen kontakto kun ismoj, supozas la malhelajn tagojn de la brila "Esperantista Heroo" de la kunvena vespero.

大正１０年（１９２１）秋*1、小樽高等商業学校で恒例の外国語大会が公開され、今年は初めてEsperanto の劇や演説が発表されるというので、当時小樽商業学校の４学年生であった私（１６才）は参観に出かけた。夜間の公園で、暮れなじむ地獄坂の急坂を上り切ると、同校の講堂の中は照明に輝き、学生や家族達で溢れるほどの満員の盛況であった。

出し物は英語、独、仏、ロシア、中国語の各科が劇や演説を上演する。劇は背景や小道具も素人離れの凝ったもので、各科競演の見応えのある物が多かった。

Esperanto の劇は "La leviĝo de la luno" アイルランド独立の志士が桟橋の上で同志と秘密裡に接触を図る場面で、合図のための民謡をうたう。当時各方面で好んで出し物にしたものである。

総勢６人程のEsperantistoj が出演した。主役は３年生（最上級生）萩原謙造ということを私はこの場で初めて知り、本人の顔も始めてみた。せりふの大部分は萩原謙造一人が担当し、他の同僚は一言、二言する程度の全くの添え物の感じであった。かけ出しのEsperantistoの私を驚かせたのは、萩原謙造の堂々たる、立派なＥｓｐ語であった。劇中、合図のアイルランド民謡も誠に美事な出来映えで歌い切ったのは、萩原の凄い語学の賜物であったと思う。

"Kiam tagiĝas la vasta mondo?
La stelo flugas tra la ĉielo,
Al senlima lando."
"Juna fraŭlino ŝajnas pli ruĝa
ol la ruĝaj floretoj,
Ruĝa ol la floretoj kreskantaj"

その後萩原は更に彼一人のＥｓｐ語演説を行った。題は" Ｌａ Ｐａｔｒｕｊｏ"

かなり長い演説であったが、流暢な淀み無い弁舌で、そのlerta Esperanto には全く感心させられたのを今以て記憶している。

この大会で彼は更にドイツ語の劇にも出演一人で長々と喋りまくった。

私が萩原謙造を見たのはこの時唯一度きりである。彼の姿は翌年小樽市から消えた*1。 高商を卒業して他に転出したものと考えていたが、私は彼のEsperantistoとしての魅力が忘れられず、その後の消息を尋ねたが果たせなかった。

数年後、La Revuo Orienta誌上、雑報欄で、萩原が横浜のＥｓｐ協会に入会した記事を見つけ、それを手づるにだれ彼に尋ねたところ、彼は横浜の女子大の教授をしているとの風聞を得たが定かではなく、彼の面影が脳裡から消えることがなかったが、今回の星田氏のＨＥＬ誌上の記事で、彼が１９３８年、人民戦線事件で特高警察に検挙され、以後弾圧の日々を送り１９４０年死去した事を知り愕然とした。あの大会の夜の輝かしい『Ｅｓｐ英雄』の暗澹たる後半生が思いやられた。

私はEsperanto をひたすら Internacia Helpa Lingvoとして位置付け、異民族間の交流のrimedoとして使い、他のイデオロギーとは一切混在させず、当時の青年の間に流行したKomunismo とも全く無縁で過ごし今９０才で現存している。

（桜居甚吉、 １９９３－５－９）

つけたし

星田 淳（苫小牧）

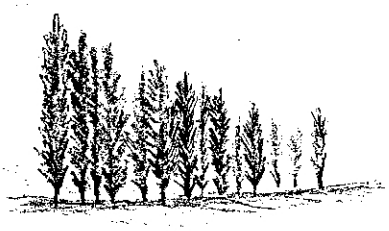
相沢さんの北海道エスペラント運動史には名が出ていないこの人物、どうも気になってきたのはもう随分前ですが、その時代を知る人は小樽にはいないとのことで古い資料を当たるうち、最近吹田市の宝木さんの情報で、萩原謙造の最後までがほぼ分かり、前回まで二つの記事が書けました。

ところが今回、桜居さんの「回想」で、この幻のＰＩＯＮＩＲＯの小樽での姿を忘れえぬ思い出とする方が現存することを知り大いに驚きました。上の文を読むと、古い資料から窺われる通りの、有り余る才能と魅力溢れる、すばらしい人物だったことが良くわかります。桜居さん、貴重な記録を誠に有り難うございました。

*1 は他の記録と食い違うところ。桜居さんからは「何しろ七十年も前のことであり思い違いも――」とお手紙を戴きました。RO 1922-6 に出た記事では、４月の講習について述べた後、

--Oni ankaŭ intencas ludi dramon Esperantan inter alilingvaj ĉe la fremdlingva jarkunveno de la kolegio; tio certe estos bonega propagando. (Raporto de S-ro K.Hagihara)

となっており、この時萩原は３年生で翌年卒業していることから、この外国語大会は１９２２（大正１１）年のことと思われます。



Gratulon! s-ro Hoŝida

速報！ 日本エスペラント学会評議員に星田淳氏が当選

第８０回日本エスペラント大会あれこれ

Ce la 80-a Kongreso de Japanaj Esperantistoj

Acuŝi HOŜIDA (Tomakomai)

Jen kelkaj scenoj el la 80-a Kongreso de Japanaj Esp-istoj en Kameoka. Ĉi-jare, en Internacia Jaro de la indiĝenaj Popoloj de UN, la Kongreso havis ankaŭ Kunvenon por pripensi la rajton de praloĝantoj. Tie mi devis prezidi kaj klarigi pri aina gento, indiĝenoj en Hokkajdo. En Publika Forumo "Nacioj, Religioj, Lingvoj" oni temis ĉefe pri konfliktoj en eks-Jugoslavio. (Eks-)Jugoslaviano kritikis ankaŭ okcidenteŭropajn landojn, kiuj haste agnoskis sendependiĝon de kelkaj respublikoj kaj lasis Jugoslavion likvidiĝi. Post la Kongreso en Kioto okazis kunsido de kunlaborantoj por la Nova Esperanto-Japana Vortaro de JEI.

１０年ごとにＥＰＡ (Esperanto - Propaganda Asocio de Oomoto) が開く日本大会、既に報じられた通り豪華で充実した内容だった。ここでは余り報じられなかったことも拾い出してみたい。

［先住民の権利を考える会］

S-ro木村が前号 (N-ro48) にちょっと書いているが、実はこの分科会、私の主催ではなく、司会も予定していなかった。仕掛け人は昨年の道大会で議論になった「アイヌ新法ほんやく」を馬場さんに提案してきた四国の Natuko T. さんだった。

「国際先住民年にあたり、先住民問題の分科会を準備する」とのこと。「意義あることです。新法ほんやくの状況についての報告くらいなら出来ますー」と返事して置いたら、「司会者が見つからないのでー」と結局司会も説明も、となってしまった。

８月８日９時から、となると、ザレスキ・ザメンホフ夫妻を囲む会、ロンド・ケン、ラジオ・北京、大本分科会、等、私も出てみたかった催しと同時進行になる。それ程の参加者はないだろう、との予想は外れ、部屋一杯約３０人の参加。エスペランティストの先住民年への関心は大きかった。

６月ＮＨＫが放映した「国際先住民年――現代史のなかのアイヌ」のビデオを見てもらい、説明する。1945年以前日本の学校の「国史」で教えた神別－皇別－蕃別、古事記－日本書紀にある隼人、熊襲、土蜘蛛、蝦夷などの日本先住民のこと、近代の「蝦夷」即ちアイヌと和人の歴史、旧土人保護法、中曽根発言で出た「日本単一民族論」、今問題の「アイヌ新法」などを話した。

「現在どのような差別があるか」との質問があり、以前関係者から聞いた例を説明したが、どうも歴史的な話が多い感じなので、帰道後近くのウタリ協会役員に尋ねたら次のような説明だった。「差別事件は今もあるが、双方で話し合って誤解が解けたり、謝って和解できる場合が多いので、表沙汰になることは少ない。ウタリ出身者の進学率もたしかに上がったが、和人との差はまだある。差別がなくなったとは言えない――」

［エスペラント誌の経営難］

El Popola Ĉinio は旧社会主義圏の読者の大半を失い、政府の補助も減った。日本の読者も最盛期の⅓。韓国の Espero en Koreio も政府の補助が打ち切られた。ともに読者拡大に努力中。

［ユーゴスラビア解体は西欧の誤り］

公開フォーラム「民族、宗教、言語」でのS-ro Nyegosh DUBE（スロベニア生まれの旧ユーゴスラビア人、米国在住）の演説より

Antaŭ 60 jaroj mia avo(serbo) edziĝis al mia avino(kroatino) en Slovenio. --Do mi estas unu el miksitaj gejugoslavoj. --Jugoslavio malaperis, etna purigo okazas, do mi estas tute malpura(rim. -laŭ ŝovinista vidpunkto). Mi opinias, ke Jugoslavio estis libera kuniĝo de Kroatio kaj Serbio. Perforta disigo de Jugoslavio estas nenatura politika perforto. Okazis kruela milito inter dispecigitaj landoj de eks-Jugoslavio, du milionoj perdis sian hejmon. Daŭras buĉado, detruado kaj perfortado--. Ĉu pro longa historio de malamo? Tio estas demagogo, mensogo, intrigo de politikistoj, kiuj instigis blindan naciismon, malamon, ekspluatante politikajn kaj historiajn elementojn. --Ĉu eŭropaj landoj montros pacon kaj humanecon en Jugoslavio, parto de Eŭropo? -- Granda eraro estis agnosko de sendependiĝo de Kroatio, Slovenio kaj Bosnio. Ilin Eŭropo devis gvidi al "Granda paciĝo". Eŭropo havis forton tiam. -- Zamenhof ofte avertis pri identigo de regno kun gento. Tion oni nun faras en Jugoslavio.

(rim.) ザメンホフは「国民」の意味で使われるｎａｃｉｏとｇｅｎｔｏ「民族」をはっきり区別して使っていた。 (Kajero 9 de ludovikito, mortinta, sed senmorta! の P183 参照)

［新エスペラント日本語辞典・執筆者説明会］

数年前から１０人の編集委員で基本語彙の執筆を進めていたが、今度「一般語彙」「専門用語」の執筆を始めることとなり、説明会が８月９日、日本大会閉幕の次の日京都で行われた。

執筆者は一般語彙１４名、専門用語１７名とか（人数は出入りもある模様）、今年末スタートして来年末には原稿をまとめる予定。やはりもう電子媒体の時代、原稿はＭＳ－ＤＯＳファイルとしてフロッピーディスクに納めて出すことになる。ＪＥＩも財政逼迫しており前途の困難が予想されるが、なんとか早期に完成させるよう努力したい。

ＳＥＳ通信

ＳＥＳの新年会兼総会は，当初１月中に開催する予定でしたが，会場の準備等の都合で２月上旬に行うことになりました。

現在，SES学習会は，毎週土曜日，札幌市中央区大通り西19丁目札幌市職員会館で，午後１時半頃から行っています。来年は，１月２２日から開始です。

後半時間の読書は，「LASU MIN PAROLI PLU !」が２月か３月頃に終了する見込み。次の教材は恋愛物語の「LA FORTO DE L'VERO]です。教材希望者は，馬場恵美子（札幌市北区新琴似7条8丁目5－35)までお申込み下さい。

宮岸忠孝氏が講師の初心者講習も来年になったらまた新受講者を募集する予定です。

Informoj　ＨＥＬからお知らせ

Internacia fako からサハリンとの交流報告

サハリンの学生マリーナさんから手紙がきた。図書(辞書１組－２冊，入門書１冊)の寄贈を，計画。図書館寄贈分にはＨＥＬからのロシア語の公式文書を添えてマリーナさんに届けてもらう（マリーナさん分の辞書と入門書も送る）。公式文書のロシア語訳に4,000円程かかる見込みなので，役員会で支出決定。なお，切替の知人でサハリン教育大の人が今日本に来ており，来年帰国するので帰国後に寄贈図書が図書館でどのようになっているか確認してもらうようにしたい。

開拓記念館の説明文のエス訳

連盟の事業として実施する方針で検討中。宮沢が資料を入手してから，どの程度をエス訳するか，まずどれから着手してどのような形にするかを決めたい。

Kunlogado　ＨＥＬ合宿

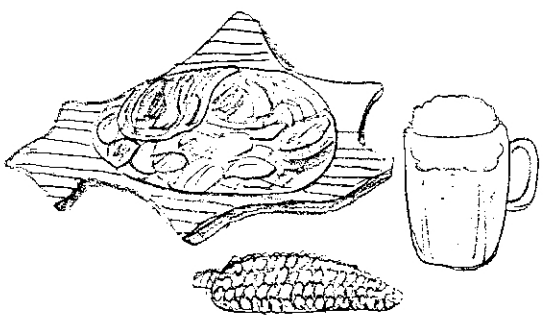
'９４年ＨＥＬの合宿は，今年と同じく岩見沢市法然寺で，５月１３，１４，１５日開催を予定。

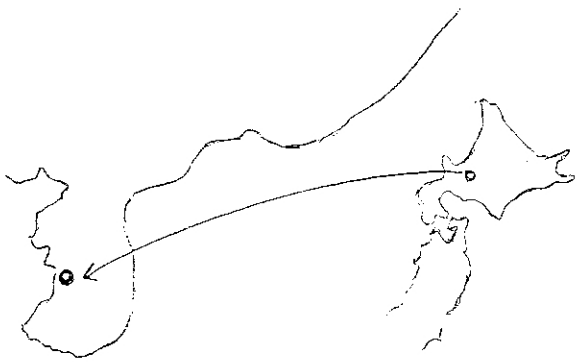
８月に逝去されたマイヨール氏の追悼記事を募集します。北海道にいらした時にお会いした方も多数いらっしゃることと思います。懐かしい思い出をお寄せ下さい。機関紙51号原稿締切りは，１月末日必着なので，よろしくお願いします。

次回のＨＥＬ役員会は，２月８日(火)午後７時から，京王プラザホテル１回喫茶店「樹林」(札幌市中央区北５西７，機関紙前号に地図あり）で開催します。当日お時間の御都合のつく方の参加を歓迎します。

La novjara kunsido de HEL

ＨＥＬの新年会を，１月２２日午後５時半から狸小路２丁目のビヤレストラン「ライオン」で開催します。各自飲食代自己負担。今まで年に１度の総会くらいしか会員交流の場がなかったので，エスペラント活動や学習について日頃考えていることや，エスペラントに直接関係のないこと，何でもいいですから大いに話しあって楽しい交流の場としたいと思います。多数の参加をお待ちします。直接会場へお越し下さい。





1994

Karavano　ソウルの世界大会へ，道内からの参加者で，千歳発着の団体旅行を計画。

すでに世界大会参加申込みを済ませた人や，参加を考えている人は児玉広夫(電　０１１－３７３－０４３４）まで御一報下さい。韓国語を話せる小熊氏も一緒で，いざという時心強く頼みにしております。皆で楽しい旅を楽しみませんか？

<学習の頁>　NE TIEL、SED TIEL ĈI ！

Nagoya, Mituiŝi K

このタイトルで素晴らしい学習書がある。座右に備えたい。

<Partopreni al io>は、誤り、en を使う

(a)

Partopreni al 1994UK 1994年世界大会への参加を！

Heroldo de HEL (1993, n-ro49)

連盟誌にある呼び掛け。この文は、正しく。

Partoprenu en la Universala Kongreso en 1994 ！ と書きたい

(b) <、、、ke mi aktive partoprenis al politika batalo>

La Japana Budhismo (1993・268号)

日本仏教エスペラント連盟（JBLE）機関誌にある文。

（267号に、HEL会員・渡辺晋道師が<Budhano kaj Budhisto>のタイトルで3頁の長い力作を書いている）

さて上記の文は、<戦中派の思いで>と題する<自分史>の筆者・大阪・竹花　人さんの文にある。この<al>も、誤りである。

partopreni～～preni parton～～en で、<参加する>の意味になる、al（方向を）は、partopreni の意味からでも間違いである。　韓国・京城の世界大会を前にして、大会参加（Partopreno en la U. K）を正しく呼び掛けよう。　動詞用法では、partopreni ion.（他動詞用法）も使える。

（一言）：単語、特に動詞を覚えるときは、意味ばかりでなく必ず、自動詞の場合は、その後にくる前置詞とともに、句 として、他動詞の場合は、その後の目的語とともに、句／熟語として、覚えることが肝要。例えば、regali～ご馳走する　と単語だけで覚えると、<君にコーヒーを，ご馳走する>が<regali kafon al vi>になる。<regali iun per io>の成句として覚えておくと<regali vin per kafo>と正しく書ける。なを　regali～厚くもてなす　の意味です。

（註）日本語の助詞<テニオハ>の<ニ>は、必ずしも<al>になるとはかぎらない。日本語の勉強も必要です。

なるべく間違いの少ない、出来たら正しいエス文を書きたい。そのための最良の手引き書を、紹介する。文を書くとき頼りになる。

a　野村理兵衛　著<エスペラント日常用語活用辞典>
　　1964, Osaka　250円

b　NOMURA R: ZAMENHOFA EKZEMPLARO
　　1989, Nagoya, 8000円

c　F. FAULHABER
　　NE TIEL, SED TIEL ĈI!
　　(konsilaro pri stilo)
　　1970、DANMARKO　(安価)

（註）aは、誰でも持っていたい。bとcは、指導者諸氏は、いつでも座右に置きたい本です。　　m　　>

PROPONO POR LA LEGO PRI LA AINA NACIO(5)

林業

1　林業の振興

林業を営む者または林業に従事する者にたいしては必要な振興措置を講ずる。

Arbarkulturo

1) Vigligo de arbarkulturo

Al ainoj, kiuj administras aŭ laboras en arbarkulturo, oni donu necesajn rimedojn por vigligi la aferon.

商工業

1　商工業の振興

アイヌ民族の営む商工業にはその振興のための必要な施策を講ずる。

Komerco kaj Industrio

1) Vigligo de komerco kaj industrio

Por vigligi komercon kaj industrion de ainoj oni donu necesajn rimedojn.

労働対策

1　就職機会の拡大化

これまでの歴史的な背景はアイヌ民族の経済的立場を著しくかつ慢性的に低からしめている。潜在的失業者とみなされる季節労働者がとくに多いのもそのあらわれである。政府はアイヌ民族にたいしては就職機会の拡大化等の各般の労働対策を積極的に推進する。

Politiko por laboroj

1) Multigi laborŝancojn

Ĝisnuna historia fono ĉiam tenas la vivnivelon de ainoj tre malalta. Unu atesto por tio estas la granda nombro da sezonlaboristoj konsiderataj kiel latentaj senlaboruloj. La registaro devas pozitive efektivigi rimedojn por multigi laborŝancojn al ainoj.

第四　民族自立化基金

従来、いわゆる北海道ウタリ福祉対策として年度毎に政府および道による補助金が予算化されているが、このような保護的政策は廃止され、アイヌ民族の自立化のための基本的政策が確立されなければならない。教育・文化の振興、農業漁業など産業の基盤整備もそのひとつである。これらの諸政策については、国、道および市町村の責任において行うべきものと民族の責任において行うべきものとがあり、とくに後者のためには民族自立化基金というべきものを創設する。同基金はアイヌ民族の自主的運営とする。

基金の原資については、政府は責任を負うべき

4. Fonduso por Memstareco de la gento

Por la tielnomata "Politiko por la Bono de Utari(ainoj) en Hokkajdo" ĉiujare subvencias la registaro kaj Hokkajda Gubernio. Tamen tian protektan politikon oni devas aboli kaj anstataŭe starigi fundamentan politikon por la memstareco de aina popolo. Progresigo de edukado kaj kulturo, pretigi bazojn por agrikulturo, fiŝado k.a. estas kelkaj eroj el ĝi. El la eroj kelkajn plenumu la ŝtato, gubernio, kaj lokaj aŭtonomioj je sia respondeco, sed aliajn plenumu ainoj mem je sia genta respondeco. Por tiuj lastaj oni fondu

であると考える。

基金は遅くとも現行の第２次七ヶ年計画が完了する昭和六十二年度に発足させる。

la Fonduson por Memstareco de la gento sub la administrado de aina popolo.

La registaro devas doni kapitalon por la Fonduso, ni opinias.

La Fonduso estu preta plej malfrue en 1987, kiam la dua sepjara plano de "Politiko por la Bono de Utari" efektiviĝos.

第五　審議機関

国勢および地方政治にアイヌ民族政策を正当かつ継続的に反映させるために、つぎの審議機関を設置する。

1　首相直属あるいはこれに準ずる中央アイヌ民族対策審議会（仮称）を創設し、その構成員としては関係大臣のほかアイヌ民族代表、各党を代表する両院議員、学識経験者等をあてる。

2　国段階での審議会と並行して、北海道においては北海道アイヌ民族対策審議会（仮称）を創設する。構成については中央の審議会に準ずる。

5. Komisionoj *1

Por speguli la deziron de ainoj ĝuste kaj daŭre en tutlanda kaj loka politikoj, oni establu jenajn komisionojn.

1) Centra Komisiono por politiko pri aina gento(provizora nomo), senpere sub la ĉef-ministro aŭ en egala rango, kies anoj estu koncernaj ministroj, reprezentantoj de aina gento, parlamentanoj reprezentantaj divers-ajn partiojn, kompetentuloj k.a.

2) Hokkajda Komisiono por politiko pri aina gento(provizora nomo) en Hokkajdo, paralele al ŝtata nivelo. La konsisto estu simila al tiu de la Centra Komisiono.

＊＊＊　　＊＊＊　　＊＊＊　　＊＊＊

（注）*1　審議会：日エス辞典では studkunsido ； studi = zorge, detale observi, peni metode esplori, komisiono = organo, komisiita esplori ian difinitan demandon aŭ plenumi ian difinitan taskon, kaj ĝuanta larĝan memstarecon en organizajo

konsilio = administra organismo, jen kun decida, jen kun konsulta kompetenteco, plenumanta diversajn funkciojn en registara aparato aŭ grava privata entrepreno. (PIV)

５回にわたって連載したこの「アイヌ新法試訳」はこれで新法全文を終わりました。もう１度見直してまとめるつもりです。関連の資料で訳する意義のあるものについては、昨年の大会でもお話しましたが、やってみる希望者はありませんか。今年の大会で提案された「開拓記念館の展示説明ほんやく」はアイヌ新法を遥かに上回る分量のものです。１１月には新しい案内書も出るとのこと、資料を揃えた上でＨＥＬ委員会で検討することになるでしょう。なおＪＰＥＡ(エスペランティスト平和の会)では西野留美子著「従軍慰安婦のはなし－十代のあなたへのメッセージ」の協同翻訳を呼び掛けています。今意義ある問題についてエスペラントで発信する「仕事」に多くの仲間が参加されるよう期待します。（星田）

Nova Perspektivo al la "Nova Leĝo" por Ainoj

La Asocio de Utari en Hokkajdo, la organizo de ainoj, aprobis la proponon de la leĝo por la aina gento en 1984. Oni nomas ĝin "La nova leĝo aina", kontraste al nun ankoraŭ ekzistanta, kvankam efektive ne valida, "Leĝo protekti Eks-Indiĝenojn(=ainojn) en Hokkajdo" de 1899. Oni kelkfoje temis pri nuligo de la malnova leĝo, sed ainoj ne kuraĝis ĝin nuligi, ĉar ĝi estis ununura leĝo agnoskanta ainojn indiĝenoj en Hokkajdo.

Do ainoj preparis tiun novan leĝon por garantii al ainoj homan dignon kaj konservi sian gentan kulturon post nuligo de la malnova leĝo. Tamen jam pasis 9 jaroj. Dum tiu tempo ili klopodis por efektivigi la leĝon, sed la afero iris ne rapide.

La peticion de ainoj por la nova leĝo aprobis la gubernio Hokkajdo, kie loĝas plejparto de la gento. En aŭgusto de 1988, la gubernio kaj gubernia parlamento kune kun la Asocio de Utari petis la registaron doni la leĝon por aina gento.

La registaro fondis esplorkomitaton por tio en decembro de 1989, sed ĝia unua esploro en Hokkajdo okazis nur en 1992.

Sed en 1993 la longa regado de Liberaldemokrata Partio falis, naskiĝis koalicia registaro, kiu celas renovigi politikan stilon en multaj facetoj. La ĉefministro Hosokaŭa akcentis estimon al homaj rajtoj en ĝenerala asembleo de Unuiĝintaj Nacioj. Li diris, ke la rajton de praloĝantoj oni devas konsideri sincere. La Asocio de Utari nun trovas novan kaj esperigan perspektivon de tia situacio.

Cetere, en 1993, la Internacia Jaro de Indiĝenaj Popoloj oni multe informis pri indiĝenoj, enlande kompreneble ofte pri ainoj. Ĝis la 3a de decembro 1993, 156 lokaj parlamentoj el 212 en Hokkajdo konsilis la registaron doni la leĝon. Ankaŭ kelkaj urboj ĉirkau Tokio kaj gubernio Nara apud Oosaka partoprenis tiun konsiladon. La Asocio de Utari nun klopodas vastigi tiun movadon. Nun ainoj pli vigle laboradas kaj esperas pri sia estonteco. (Acuŝi HOŜIDA)

INTERVENO al la 57-a kongreso en Otaro

Sendajo, 1993/septembro/25

Karaj kongresanoj,

Mi tutkore gratulas vin pro prospero de la kongreso en la verda havenurbo Otaro.

Malkutime ĉi-jaran kongreson mi ne povas ĉeesti pro diversaj kialoj, ĉefe pro problemo de monujo, kio tre malĝojigas min. Cetere mi tamen scias, ke estas kongresantoj, kiuj saltas de ĝojo pro mia malesto, kriante: "La nervekscitigulaĉo ne venas!" "Ĉu vere? Hura!" "Ni tostu! Alportu botelojn!" "Jeeees, mi tuj!" --- Sed evidentas jena fakto ke mia perletera partopreno kun pago modeste kontribuos unue al la kongresa kaso, due al Ŝia Redaktorina Moŝto, kiu ofte plendas pro kronika manko de esperantaj legaĵoj por nia Heroldo.

Profitante ĉi tiun okazon, mi denove dankas malnovajn amikojn, kiuj leteris, eĉ venis al la kliniko en kiu mi pasigis tri monatojn en piĵamo. Ili tre kuraĝigis min kaj nun mi revenis en antaŭan rutinan vivon. La malsanulaj tagoj instruis al mi multon pri vivo, socio, homo k.a., kiun mi neniam spertis ĝisnune kaj kiun oni ne povas sperti, se li/ŝi ne metas sin en kolegojn de la malsano. Pri tio mi iam en la paĝoj.... Ne. Mi ne ŝatas malgajan temon, nek volas ĝeni vin per tia skribaĵo malbonefika al sanuloj.

Nu, vi kongresas en Otaro. Estas bone konate ke la urbo nedisigeble ligas Esperanto-Movadon en Hokajdo kaj en Japanio. Otaro estis unu el lululoj de nia movado. Tie poste plenfloradis pompa movado, naskiĝis multe da eminentuloj kaj pasigis infanecon ankaŭ la brila gazeto Leontodo, mia opinie ankoraŭ oficiala organo de HEL. En tiu urbo vi ja havas kongreson. Ĉu tio ne signifoplenas? Ĉu la loko ne estas taŭga por startolinio de hokajda movado al la 21-a jarcento? Mi esperas, ke tie denove prosperos nia verda floro. Kaj ĉie en Hokajdo prosperu la verdaj floroj, igu la tutteron al bedo de la floroj!

Karaj kongresanoj, kune kun vi ankaŭ mi festu la renkontiĝon, tostu por nia demorgaŭa semado kaj prikantu belan estontecon de niaj laboroj!

Trans la markolo Tugaru salutas vin

KAWAHARA H. K.

La Zamenhofa festo '93 en Sapporo
札幌エスペラント会のザメンホフ祭

１２月１１日(土)PM3:00～札幌市職員会館で開催。１７名参加。

Esperoを歌って開会。♪

最初に，札幌エスペラント会々長児玉からザメンホフについての話がある。

岩内の桜居さん訪問と荒井記念美術館について二郷，渡辺(康)，金森，瀬川が報告。
桜居さんから，エスペラントや岩内についての昔の話，２６回にわたり６８か国を訪問した話等をお聞きしたことや，ピカソの版画や西村ケイユウの絵画を中心とした荒井記念美術館についての話は大変興味深いものであった。なお，岩内には公立の木田金次郎美術館も来年造られるとのこと。

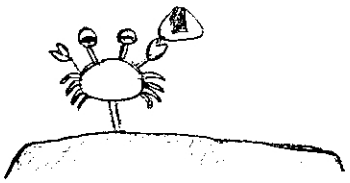
サンフランシスコのエスペラント講習会（毎年実施されており，エスペラント漬けの生活で実力が身に付く有意義な講習会です。）について，２年前に参加した岩間がアジアとアメリカの考え方のギャップ等も交えてその体験を語った。

その後は，雑談になり，今年，逝去されたマイヨール氏が札幌に来られた時の思い出話や，戦争中に弾圧されたエスペランチストの話，例年恒例となっているバザーに現在オーストラリアにいる末永さんからいろいろな品の提供があったことを渡辺(康)がMesaĝoとともに披露したことから，オーストラリア英語についての話へと，次々と活発に話がはずんだ。

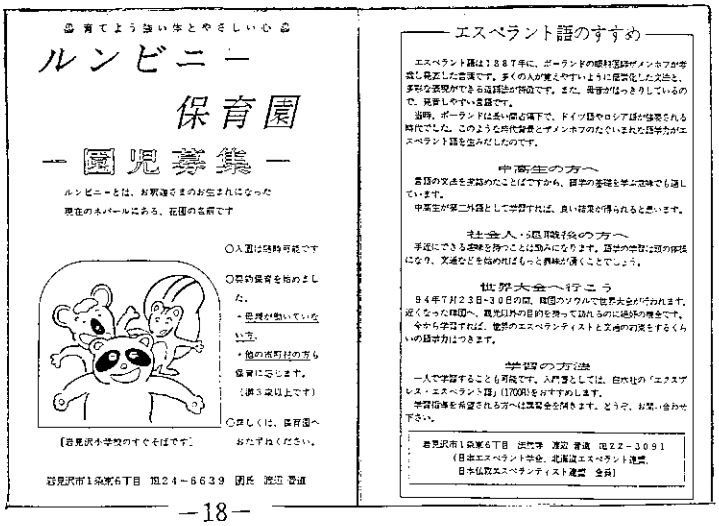
国際頭痛学会出席のため今年パリに行った伊藤(直)がエスペラントにとって重要な都市としてのパリの歴史を語り，スライドを映写。

楽しい棒人形劇「サルカニ合戦」を，金森，瀬川，二郷，渡辺(康)，がエスペラント語で上演。熱の入った演技で，最後はサルが悔い改めて皆仲良くなるのがいかにもエスペラントらしいと大好評。

皆で楽しく何曲か歌を合唱して，閉会の時間となる。



（なお，最初に時間をとって，ＳＥＳ新年会で実施できなかった会計報告を会計担当の阿部から報告。これは臨時の中間報告のため，正式な報告は次回の総会兼新年会で実施する。'９４年の総会兼新年会では，組織強化のため会計担当を中心とした役員改選と新たな役職(Gasto担当等)を補充の予定。）



エスペラント語のすすめ

エスペラント語は１８８７年に、ポーランドの眼科医師ザメンホフが考案し発表した言葉です。多くの人が覚えやすいように簡素化した文法と、多彩な表現ができる造語法が特徴です。また、母音がはっきりしているので、発音しやすい言語です。

当時、ポーランドは長い間占領下で、ドイツ語やロシア語が強要される時代でした。このような時代背景とザメンホフのたぐいまれな語学力がエスペラント語を生みだしたのです。

中高生の方へ

言語の文法を煮詰めたことばですから、語学の基礎を学ぶ意味でも適しています。

中高生が第二外語として学習すれば、良い結果が得られると思います。

社会人・退職後の方へ

手近にできる趣味を持つことは励みになります。語学の学習は頭の体操になり、文通などを始めればもっと興味が湧くことでしょう。

世界大会へ行こう

９４年７月２３日~３０日の間、韓国のソウルで世界大会が行われます。近くなった韓国へ、観光以外の目的を持って訪れるのに絶好の機会です。

今から学習すれば、世界のエスペランティストと文通の約束をするくらいの語学力はつきます。

学習の方法

一人で学習することも可能です。入門書としては、白水社の「エクスプレス・エスペラント語」(1700円)をおすすめします。

学習指導を希望される方へは講習会を開きます。どうぞ、お問い合わせ下さい。

岩見沢市１条東６丁目　法然寺　渡辺 晋道　TEL２２－３０９１
（日本エスペラント学会、北海道エスペラント連盟、
日本仏教エスペランティスト連盟　会員）

El Sekretariejo 93/10/13-93/12/13

Universala Esperanto-Asocio mendis al ni 5 ekzemplerojn de Ainaj Jukaroj.

Ni ricevis de Mine-Jositaka en Hjōgo informilon pri nova revuo. Jen estas la enhavo. [Kirikae-Hideo]

Interkultura revuo en Esperanto **Riveroj** ekfluas.

Ni lanĉas novan revuon.

Post la ĉesoj de "l'omnibuso" en 1980, "la Dua Buso" en 1984 kaj "Preludo" en 1989, mankas internacia revuo esperantlingva en Japanio, krom unusola novaĵletero, "Novaĵoj tamtamas" de Jokohama Esperanto-Rondo. Kiam malaperis publikejo de io literatura, tiam ŝrumpos aktiveso de ĉio kreiva, tiel ni vidas.

Nia deziro, do, estas heredi la vivlaboron de SAITÔ EIZÔ kaj denove proponi publikejon malfermitan al tiuj novaj talentoj, kiuj bezonas tian en la orienta Azio. Por ili ni lanĉas novan revuon interkulturan.

Kial ne "literatura", sed "interkultura"? Nia "Riveroj" fluos kun ĉio kultura, lingve verkita, kiel siatempe veturis "l'omnibuso". Kaj ni tamen rezervas nian rajton rifuzi tiajn, kiaj maldecas al nia celo utili kontraŭ ŝovinismo kaj diskriminacio.

Cetere, nia eldonanto retajpas ĉiujn kontribuaĵojn per sia maŝino kaj faras la aspekton plaĉa. Ankaŭ tio estas "l'omnibusismo".

Jen, ŝprucan kontribuon de novaj fonto-havantoj ni kore atendas!

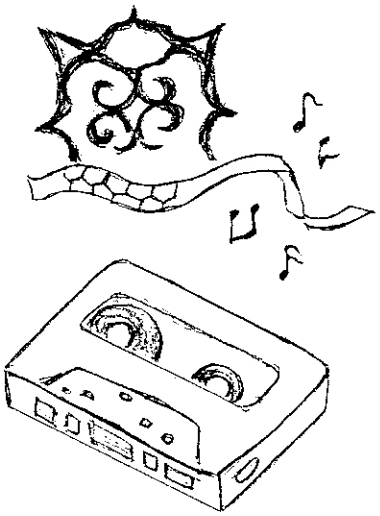
"Riveroj" は季刊で発行します。今年８月に創刊し、１１月に第２号を発行しました。内容は対象を文学に限定せず、広く文化全般に関するテーマを扱っています。そのため 'literatura' ではなく、'interkultura' と名づけました。

購読料は、１年（４号）分、２４００円ですが、２部分の料金で３部お送りしますので、なるべく duobla abono をお願いします。創刊が報じられて、海外からの問い合せがたくさん来ています。外国の手紙友だちにぜひお送りください。きっと喜ばれます。なお、ご希望により、直接外国へ発送します。この場合は、船便で２４００円、航空便で３０００円です。いずれも、郵便為替でお申込ください。

もちろん寄稿も歓迎します。（清書の必要はありません）この新しい雑誌を育ててくださるよう、ご支援をお願いします。

１９９３年１２月　編集者　峰　芳隆

振替口座　大阪０－２５３０３５　ＲＩＶＥＲＯＪ



先住民族年に当たりアイヌの音楽も入った
Sor-mazio Najtingalo (6)

おなじみのS－ro Reza が季刊で出しているカセットマガジン、somero 1993 のカバーは厚司（アイヌの上着）の絵があり、テープにはアイヌ民族の音楽や歴史の解説も入っている。解説はHELで出した AINAJ JUKAROJからとったもの。実は音楽もカバーの絵も、頼まれて提供したものだ。いつもながらRezaの発音ははっきりしてわかりやすい。

外の内容はマレーシアの解説、エスペラント音楽グループKajtoのインタビューなど。間に歌（4曲）や詩の朗読がうまく組み合わされている。歌詞を含むテキスト付きで￥1250（郵送料込み）。 JEIで取り次いでいます。

（苫小牧　星田　淳）

Novaĵo de s-ro Yamamoto

S－ro山本昭二郎 犬歯!
Hundo vundis S-ron YAMAMOTO!

本誌に「エスペラント交友録」を書いている山本昭二郎さんのハガキ（10月28日付け）の一部を紹介します。

”10月26日朝5時半、大型のハスキー犬が鎖を引きずって押入り、居間で拙宅の秋田犬と乱闘、つかまえようとして噛まれ、今は私も入浴もできず、外科に通院しています。向こう一週間はかかる、と思われます。・・・

（交友録について）・・・あくまで埋め草のつもりですが、交友は多いから、まだまだ書けます。私がEsp.によってどんなに沢山の友人、知己を得たか、今さらのように驚き感謝しています。腕や手の傷（5ヶ所）が治ったら又書きます・・”

Baldaŭan resaniĝon al vi! 早く全快されて又「交友録」を読ませて戴きたいものです。

（苫小牧　星田　淳）

Donacitaj Gazetoj 93/10/13-93/12/13

La Pontego: Organo de Kagaŭa Esperanto-Societo. 4.
Irena Hirai-Jiraskova "Somero en Ĉeĥio" / KOSAKA Kijojuki "Okcidento kaj Oriento" / 平野祐一　バハイ教徒との出会い /（その他）

Al Vi Kara: Organo de Kioto-Esperanto-Societo. 69.
TAHIRA Masako "Kiel vi opinias?" /（その他）

Mejlŝtono: Organo de Sendai Esperanto-Societo. 120.
第３４回東北エスペラント大会開催される / OOKOSI Kejĵi "Tri Semajnoj en Usono"/（その他）

『センター通信』170. 名古屋エスペラントセンター
センターの財政危機を克服するための緊急アピール / 寒い国から来た言語学者 D-ro Kuznecov /（その他）

『センター通信』171. 名古屋エスペラントセンター
イカイヨシカズ　エスペラント書探訪（７） Wüster, Eugen. Enciklopedia Vortaro Esperanta-Germana / "La Neforgesebla Tago" 翻訳と印刷 / 日ロ文化交流の集い / ザメンホフ祭の案内 /（その他）

Novaĵoj Tamtamas: Internacia Gazeto de Jokohama Esperanto-Rondo. 86.
Nova kolumno "Saluton!" en la loka ĵurnalo "Kanagaŭa-Ŝinbun" / Matuda Silvia. Kortuŝe estis stari supre de la monto Fuĵi / Milito en Jugoslavio: Prelegis Nyegosh Dube, en la 2a de oktobro 1993 / Eldoniĝis nova lernolibro de Esperanto "Hanako lernas Esperanton" /（その他）

La Tamtamo: La Organo de Jokohama Esperanto-Rondo. 241.
"Kumeŭaŭa, la filo de ĝangalo" 第１４回読書会選定図書『ジャングルの少年』 / 韓国エスペラント大会にハマロンドから３人参加 /（その他）

Lernantoj: Lernogazeto de Jokohama Esperanto-Rondo. Novembro 1993.
沢辺薫子　あまりに元気すぎる！第２５回韓国エスペラント大会（韓国ソウル市）に参加して /（その他）

Katalogo de Mevo-Libroj 1993. Jokohama Esperanto-Rondo.

Novaĵoj Tamtamas: Internacia Gazeto de Jokohama Esperanto-Rondo. 87.

Letero de KAWAHARA Kazuya / "Surprizi$\hat{g}$is je 'Tempo estas mono'", "Japanoj $\hat{c}$iam kuras!" amba$\breve{u}$ el "Saluton!", nova kolumno de la loka $\hat{z}$urnalo "Kanagaŭa-$\hat{S}$inbun" / La japana ekonomio malkreskas / Japanoj lo$\hat{g}$antaj eksterlande ne povas vo$\hat{c}$doni / (その他)

La Tamtamo: La Organo de Jokohama Esperanto-Rondo. 242.
神奈川県エスペラント連盟主催第２３回神奈川県ザメンホフ祭のお知らせ / (その他)

Lernantoj: Lernogazeto de Jokohama Esperanto-Rondo. Decembro 1993.
エスペラントにも言及　田中克彦『言語学とは何か』 / グレジョン城　９４年の予定 / 聴き取り力強化テスト / (その他)

Vojo Senlima: Organo de Kumamoto Esperanto Grupo. 127.
ロシア音楽のひととき　ガリーナ・ポリーナのコンサートを終えて　熊本エスペラント会の取り組みの経過報告 / 保村翠　行ってきました　世界エスペラント大会 / (その他)

Verda Monteto: Organo de Wakayama Esperanto-Societo. 78.
Renkonti$\hat{g}$o kun Esperantistoj en 香港 / エスペラント主義に関する宣言 1905年ブーロニュ・スル・メル / (その他)

Mi impresi$\hat{g}$is precipe per du el $\hat{c}$iuj artikoloj sur gazetoj donacitaj en $\hat{c}$i tiu periodo: Jiraskova-a "Somero en $\hat{C}$e$\hat{h}$io" kaj Kosaka-a "Okcidento kaj Oriento", kiuj amba$\breve{u}$ aperis hazarde en la sama gazeto, La Pontego. Jiraskova desegnas nunan vivon en Bohemio, kaj Kosaka pripensigas nin pri soleco de fremdlanda vivo. Tahira aperigis en "Kiel vi opinias?", Al Vi Kara, tutan enhavon de impresa letero permesite de la sendinto. La sendinto skribis, kial li kabeis. Li kabeis, sed li skribis en Esperanto. Lia plendo kontra$\breve{u}$ "malsa$\hat{g}$aj esperantistoj" estas a$\breve{u}$skultinda por $\hat{c}$iuj samideano.

関心のある方には、郵送費をお支払いただければ貸出いたします。　[Kirikae-Hideo]

ボールトン「ザメンホフ」翻訳・出版される

Japana eldonaĵo de Boulton-a Zamenhof: Creator of Esperanto aperis.

Boulton, Marjorie. 水野義明訳
『ザメンホフ　エスペラントの創始者』
新泉社，1993年11月，312ページ，¥1900.

本書は、マージョリー・ボールトンが英語で著したザメンホフの伝記の翻訳である。女史のザメンホフ伝には、この他、エスペラントによるものもある。翻訳された英語版は1960年に世に出たものである。ボールトンは1924年生れのイギリスのエスペランチストで、文学研究家である。（以上は、訳書の307ページから312ページに掲載されている訳者あとがき、原著者から訳者への手紙による）

日本の普通のエスペランチストにとって、手軽に読むことのできるまとまったザメンホフの伝記としては、伊東三郎『エスペラントの父ザメンホフ』（岩波書店）しかなかったのではないか。伊東の描くザメンホフ像と、この訳書をとおして理解されるボールトンのザメンホフ像とには、大きな違いはないように思われる。理想に殉じ、しかしながら偏狭ではなく常に寛容なザメンホフ。だがこの訳書の刊行は我々にとって意義深いことと思われる。なぜなら、ボールトンのものは、普通の日本のエスペランチストがまだ詳しくは知らないでいるある事件のいきさつを実に興味深く、鮮やかに描いているからである。そしてその箇所がこの伝記の最も読みごたえのある箇所になっていると思う。（普通の日本のエスペランチストというのは、めったにエスペラントを書いたり読んだり話したり聞いたりする機会のない日本のエスペランチストのこと）

事件というのは、エスペラント運動の中心地がロシア、ポーランドからフランスに移った時期（１９００年ごろから第１次大戦まで）に生じ、おそらくザメンホフを何度も死にたくなるような思いにさせた一種のドタバタ騒ぎであって、史上有名であるから、もちろん伊東のものにも触れられている。ボールトンはこの複雑な事件の経緯を、関与した個々の人物像とからめてより具体的に述べている。この騒動は、１、２の人が今少し率直、明快に振る舞いさえすれば、つまり責任を明確にして発言し、行動しさえすれば何でもなかったことが、そうしなかったがため、奇怪なほど錯雑紛糾し、その結果、当時のエスペラント界が相互の憎しみで２分されるに至った事件である。ボールトンの筆致は、人間に対する深甚の興味をかきたてる。エスペラント運動に携わる人々が等しく研究したなら、身の処し方が学べ、人間洞察を深めるよすがとしうるものである。しかし、その効用を除けば、事件そのものは全く全く果てしなく無意味なものであったと思わざるをえない。「忠実で献身的な多くのエスペランチストが自分たちもわけが分らない役割を演じなければならなくなった喜劇」（１６９ページ）と述べるボールトンの目は澄んでいる。

この事件によせて、敢えてまったく私的な感想を述べさせてもらえば、我がエス界にもよくある変名、匿名、頭文字などの使用は良くないと思う。ザメンホフの変名使用は、この事件の惹起に果たして無関係であったのだろうか。

ボールトンの叙述は常識に貫かれており、暖かさにあふれている。その才能は、初期のころの世界大会の熱狂を描写するさいに特によく発揮されている。

巻頭の口絵にあるザメンホフのエリザ・オルジェシュコーヴァ（Marta の著者）への献辞、バルセロナのエスペラント・クラブ宛てというザメンホフの葉書、それぞれの写真版から判読したものを以下に掲げる。本書を購読のうえ、実際に当られ、未詳とした箇所を教えていただければ幸いである。それにしても、ザメンホフの真筆が読めないなさけなさ、痛く恥じている。

Al la glora verkistino
kaj nobla idealistino
Sinjorino Eliza Orzeszko
kun plej sincera kaj profunda estimo
dediĉas
LZamenhof
22/IV 1910

Dro. L.L.Zamenhof
Varsovio, str.Dzika No.9.

Bad Neuenahr.[?]
Vina Erna.[?]
29/VII 1913

Karaj Sinjoroj
Akceptu mian koran dankon
pro la honoro, kiun Vi decidis
fari al mi, [ ]ante mian
kiel honoran Prezidanton de
Via Societo. Sed bedaŭrinde
mi ne povas akcepti tiun honoran
titolon, ĉar pro diversaj
kaŭzoj mi nun en nenia
societo akceptas tian titolon.
Anstataŭ honora prezidanto
volu min rigardi kiel honoran
membron.

Via
LZamenhof

破格の料金！

ＨＥＬでは、この新刊書を取次ぎます。連盟事務局まで葉書でお申込いただければ郵送いたします。勉強します。定価１９００円（税込）のところ、なんと**１２００円**で頒布致します（郵送費込み）。本が到着しだい郵便振込にてお支払いください。郵便振込口座　小樽０－１７０７５　北海道エスペラント連盟　　[切替英雄 Kirikae-Hideo]

LETERO DE LEGANTO

Antaŭnelonge tre ĝojigis nin neatendita letero alveninta de nova leganto. Korajn dankojn al li kaj la klubo. Ni dividas tiun ĝojon kun vi, reprodukt-ante la afablan leteron kun la permeso de la aŭtoro.

La Red.

Sapporo, la 1-an de decembro, 1993

Estimata redaktoro kaj karaj amikoj,

Mia malnova amiko en Ueno, Tokio sendis al mi lastajn numerojn de via informoriĉa bulteno, kiuj tre interesis min. Li ankaŭ rekomendis al mi turniĝi al vi, ĉar nia Esperanto-Klubo (kies sekretario estas mi) havas ĝis nun nenian kontakton kun lokaj grupoj. En la lasta semajn-kunsido mi komunikis lian rekomendon al la klubo kaj ni tuj decidis leteri al vi.

Unue mi iom prezentas min mem. Antaŭ jaroj mi transloĝ-iĝis de Honŝuo al Sapporo. Antaŭ la transloĝiĝo mia fami-lio iom timis severan malvarmon ĉi tie dum aŭtuno kaj vin-tro. Certe pasintece neniam niaj prauloj loĝis en Hokajdo. Oni eĉ kredis, ke niaj prauloj malfacile povos vivteni sin kaj baldaŭ pereos sub la terura klimato de vintro en la insulo. Nur malmultaj prauloj provis enmigri, sed tiuj, kiuj kuraĝis per ŝipo transiri la markolon, fakte pruvis la malfeliĉan historion per sia nenia vivsigno al la post-lasitoj en hejmloko.

Dekoj da jaroj pasis. Scienco progresis kaj homoj regis naturon. Nun la aserto estas tute rompita. Miaj amikoj ko-mencis enmigri en Hokajdon. Akcelis la migradon aviadilo kaj submarvagonaro. Oni nun trovas ĉie en la urboj kom-fortajn vivkondiĉojn. Ankaŭ mia familio venis al Sapporo per la vagonaro kaj trovis en la antaŭurbo tre favoran loĝlokon, kie nun miaj familianoj feliĉe ĝuas someron.

Karaj amikoj, mi ne erare elektis la sezonnomon (mi tre

fieras ke mi lernis la lingvon de la eminentulino Manjo en Kioto, kiam mi vegetis en la kuirejo de ŝia domo). Por vi nesupozeblas la sceno, kie verdas folioj, buntas floroj, eĉ flirtas papilioj dum ekstere etendiĝas arĝenta mondo. Mi vin invitas al mi. Vi tie pasigos T-ĉemizan tagon.

Nia klubo estas modesta, sed sufiĉe internacia. Se vi ĉeestus nian kunsidon, vi trovus vin kvazaŭ en Universala Kongreso. La prezidanto venis el Hindio, kasistino naskiĝis en Afriko, inter veteranoj troviĝas eksŝoforo en araba dezerto. Ne nur tiuj, sed ankaŭ junuloj el Misisipio kaj el Siberio. Antaŭ semajnoj membriĝis al la klubo gesinjoroj devenitaj de Tasmanio. Kaj multas japanaj samideanoj. Mi ĝojigas vin per speciala sciigo. Vi trovos en nia klubo ankaŭ diligentajn kolegojn, dank' al kiuj nia klubo prosperas. Krokodiloj! Mi bone scias, ke vi tre-tre ŝatas ilin, pro la koloro de ties vesto -- verda!

Ni havos nian Zamenhofan Kunsidon kun la temo "Esperanto kaj Best-Protektado" la 15-an en mia loĝejo (adreson vi vidos malsupre). Mi elkore bonvenigos vian ĉeeston.

Tuteŝerce via,

Blato

Domo por Tropika Besto kaj Planto,
Urba Zoologia Ĝardeno,
Parko Maruyama-Kôen, Sapporo

* * * * * * * * * * * * * * * * * * *

Tre ofte oni diras en Hokajdo, ke la aminda hejma insekto ne loĝas en la insulo pro malfavora vivkondiĉo de la friskaj sezonoj. Tial tie oni ne vidas en apoteko kaj en ĉiovendejo "Gokiburi-Hojhoj"-n, "Balsan-Jet"-n, nek ties famajn televidajn reklamojn, al kiuj japanianoj escepte de hokajdanoj ekde infaneco kutimiĝas. Sed la supra letero atestas, ke venis tempo kiam ni devas malkatenikiĝi de la misscio pri la plej malnova amiko de la homaro. Iru al la tropika domo. Vi vidos la intiman amikon. (Kk)

編集部から　El redaktejo

Heroldo de HELも今回で５０号となりました。第１号発行当時の思い出を木村喜壬治氏が，その歩みを星田淳氏が，書いて下さいました。

また，自分の時間も削り４２号まで熱心に編集にたずさわってくれたカワハラ・カズヤ氏からも４頁にわたる原稿をお送りいただきました。

しばらく編集長をなされた宮井康夫氏が業務多忙等のため現在エスペラント運動から遠ざかっていられるのが残念です。

歴代編集者と比較すると，まったくその足元にも及ばないいいかげんさで，N-ro 42を２回出してしまい後に訂正したり，字を誤る等と毎回訂正の連続でしたが，皆様の御協力を得て，どうやら年６回の発行ができ記念すべき第５０号発行にこぎつけることができました。今後ともより一層の御指導，御協力をお願い申しあげます。

なお，前号は，編集の不手際で訂正が手書きで挿入となってしまい読みにくかったことをお詫びいたします。

ところで，カワハラ・カズヤ氏が，名前の表記が不統一と，ABE Ejko, Ejko Abe, Abe-Eiko の疑問を述べていますが，私としてはどう書いてもかまわないと思っています。普通はEjko Abeを使っていますが，気分によって Abeを先に書くこともあります。

その記事の釣合いを保つためや，人それぞれに考えがあると思うので，極力記事には手を入れず（実は手を入れるほどの考えも語学力もないためですが）そのまま載せていますので，今後は，Ejko ABE, Eiko ABE, ABE Eiko, アベ エイコなどの表記も出て来るかもしれませんが，どれも阿部映子だと考えてください。

（阿部映子 Ejko Abe）

前号訂正　Korektoj

5頁22行目（ＳＡＴの報告の3行目）…，La Mobado …⇒…，La Movado …

8頁14行目"La Granda Generalo kontraŭ Barbaroj"（征夷大将軍）⇒ "La Granda Generalo konkeri Barbarojn"（征夷大将軍）これは訂正後の原稿が送られていたのを見落とし，古い原稿をそのまま載せてしまったため，文章下部の（要約・コメント）の意味がわからなくなってしまったものです。

Ｈｅｒｏｌｄｏ　ｄｅ　ＨＥＬ
第５０号（1993.12.28）
北海道エスペラント連盟機関紙
編集部
〒001 札幌市北区北12西1パークMS602
阿部映子気付 ☎011-756-2291
郵便振替口座　小樽０－１７０７５
北海道エスペラント連盟